

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第1号(5月))

標記について、次のとおり発表します。

《5月の病虫害発生予報》

＜作物＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病			
				ばか苗病		
			もみ枯細菌病 ヒメビウンカ (縞葉枯病)			
				イネミズゾウムシ		

＜果樹類＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病		
				灰色かび病		
もも					せん孔細菌病	
みかん				黒点病		
				そうか病		
				コナジラミ類		
				ハダニ類		
			アブラムシ類			
果樹類全般			果樹カメムシ類			

<野菜類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病			
			灰色かび病			
トマト			葉かび病・すすかび病			
			灰色かび病			
ねぎ たまねぎ				うどんこ病		
				ミナミキイロアザミウマ		
				コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)		
				べと病		
				白色疫病		
				ネギアザミウマ		

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・ 花き類				アブラムシ類 (ウイルス病害)		
			ミカンキイロ アザミウマ			
			ハモグリバエ類			
				コナジラミ類		
				ハスモンヨトウ		

《今月のトピックス》

■発生が**平年よりやや多く**見られる病害虫

【もも】

もものせん孔細菌病は、今年もやや多い発生が認められました。

■現在、発生はやや少ない・平年並だが、**今後の発生に注意**が必要な病害虫

【なす】 うどんこ病・灰色かび病 (曇天・過湿が続くと発生する)

【野菜類・花き類】 コナジラミ類・アザミウマ類 (ウイルスのまん延に注意)

☆一部地域のバラ科果樹(もも、うめ、すもも)においてクビアカツヤカミキリの被害がみられます。ほ場内をよく見回り、フラスを見つけたらしっかりと対策しましょう。

具体的な対策については、4月11日発表の防除情報「クビアカツヤカミキリに警戒!!」を参考にして下さい。病害虫防除グループホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>

《(参考)5月の気象予報》(大阪管区气象台 4月26日発表)

気温	低い(10%)	平年並(20%)	高い(70%)
降水量	少ない(30%)	平年並(30%)	多い(40%)
日照時間	少ない(40%)	平年並(30%)	多い(30%)

(詳細は、一覧表参照)

A 作物

1 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の葉いもち及び穂いもちの発生は少なかった。 ・向こう1ヶ月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩水選を確実にを行い、充実した種もみを選別する。 ・種子消毒を徹底する（温湯、薬剤）。薬剤消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県においてQoI剤耐性菌の発生が報告されている。 …QoI剤成分例：アズキシストロビン（アミスター）、メトミノストロビン（イモチエース、オリブライト）、オリサストロビン（嵐）等
ばか苗病	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の発生は、平年並であった。 ・向こう1ヶ月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩水選を確実にを行い、充実した種もみを選別する。 ・種子消毒を徹底する（温湯、薬剤）。薬剤消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。 ・前年発生の多かったところでは、耐性菌発生の可能性があるため、薬剤の種類を変える。 ・発病が認められた場合、株が枯死する前に抜き取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗を苗代で行う場合、高温であると発生が多くなる。
もみ枯細菌病 （苗腐敗症）	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の巡回調査では、発生は少なかった。 ・向こう1ヶ月の気温は高いと予想されている。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩水選を確実にを行い、充実した種もみを選別する。 ・種子消毒を徹底する（温湯、薬剤）。薬剤消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。 ・出芽時の高温は発病を助長するので、温度を30℃以下にする。
ヒメトビウンカ （縞葉枯病）	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密植を避けて通風を良好にし、窒素肥料の過用を避ける。 ・育苗箱に箱粒剤等を施用する。 ・イネ科雑草で越冬するため、まだ耕起していない水田では早めに耕起して、密度低下を図る。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縞葉枯病を媒介する。 ・H29年11月のひこばえ調査では縞葉枯病が見られた。

イネミズゾウムシ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の巡回調査では、発生は平年並～やや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極端な早植は越冬世代成虫が集中し、被害が増大する。 ・移植後は浅水に管理し、健全な発根を促す。 ・発生が多い所では、薬剤を育苗箱施用する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は根を食害し、成虫は葉をかすり状に食害する。 ・中山間の水田で発生しやすい。
----------	--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

B 果樹

1 ぶどう (デラウェア)

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月から10月に降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培では換気やマルチングを行い、湿度を下げる。 ・落花直後の花がらを取り除く。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる春型枝病斑は除去し、適切に処分する。 ・薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前後が効果的。 ・風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿におけるせん孔細菌病の発生は「多い」と予想されている（農林水産省：平成30年4月18日付け「平成30年度病害虫発生予報第1号」）

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる枯枝は除去し、適切に除去する。
そうか病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生の多い園地では、落弁期の防除を徹底する。
コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ハダニ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。
アブラムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

4 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年のフェロモントラップによる誘殺虫数は、平年並～やや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿における果樹カメムシ類の発生は「多い」と予想されている（農林水産省：平成30年4月18日付け「平成30年度病害虫発生予報第1号」）

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 (QoI 剤 (アミスター、ストロビー、シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。) <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にハウス栽培で発生する。ハウス内温度が 23~28℃位で、湿度が高い条件で発生が多い。曇雨天が続き、換気が不十分だと発生しやすい。
灰色かび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病は、多湿、日照不足で発生が多くなる。 ・QoI 剤 (シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。 ・QoI 剤 (アミスター、ストロビー)、SDHI 剤 (アフエット) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
ミナミキイロアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・向こう1ヶ月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植時には、粒剤やかん注処理により剤を施用する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

2 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培においては換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。 ・下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
灰色かび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行うとともに、茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病は、多湿、日照不足で発生が多くなる。
コナジラミ類 (トマト黄化 葉巻病(TYLCV))	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設では、開口部を寒冷紗等(0.4mm目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草にも努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・感染株は見つけ次第抜き取り土中に埋める等処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介する。

3 たまねぎ

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・一部ほ場で二次感染株が見られた。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場の排水を良くする。 ・発病した株は翌年の感染源になるので、ほ場外に持ち出して処分する。 ・すでに発生を認めているほ場では、直ちに薬剤散布を行う。 ・一昨年に激発したほ場では、丁寧に薬剤散布を行う。 ・現在、発生のないほ場でも、予防的に薬剤散布を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特に、QoI 剤（ホライズン）、CAA 剤（プロポーズ、レーバス、ザンプロ）、フェニルアミド系（リドミルゴールドMZ）は耐性菌が発生しやすいため連用は避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・べと病は多湿、日照不足で多発する。気温が 15℃前後で、降水量が多いと増加する。特に4月中下旬から5月上旬にかけて曇雨天が続くと発生が多くなる。葉に黄変を生じず、突然灰色～黒色のかびを生じることもある。
白色疫病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに発生を認めているほ場では、直ちに薬剤散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白色疫病は多湿、日照不足で多発する。
ネギアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並みだった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類 (ウイルス病害)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・黄色水盤による誘殺虫数はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ウイルス病が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス (CMV) などがある。
ミカンキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月から発生が増えるので、少発生時の防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、ビニール袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、トマト黄化えそウイルス (TSWV) を、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物に媒介する。
ハモグリバエ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部をネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・しゅんぎくや大阪しろな等では、収穫後に地表面をビニール被覆し、1日間太陽熱により土中の蛹を殺すこと(晴れの日丸1日ビニール1枚敷き)で、次作の被害を軽減できる。(4~10月の間可能。但し4、10月は効果がやや低い。) ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草にも努める。

コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色粘着トラップへの誘殺虫数は、やや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部を 0.4mm 目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草にも努める。
ハスモンヨトウ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約 15 件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)